浄土真宗本願寺派 四州教区徳島中組　金輪山 無量壽院 尊光寺　電話0883-36-3026　メールsnkoji2@yahoo.co.jp　Instagram@sonkoji_temple
尊光寺ホームページ www.sonkoji.jp/　（寺報やブログを掲載中）
平成30年9月

尊光寺報

第122号

徳島県阿波市市場町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑰

（赤い経本 八ページ）

成等覚証大涅槃　必至滅度願成就

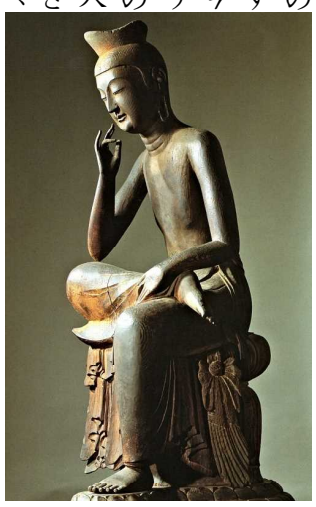
-信心を恵まれた者は弥勒と同じ-

前回までが、「本願名号正定業　至心信楽願為因」の部分でした。振り返りますと、阿弥陀如来の「かならず救うまかせよ」と絶えず私に呼びかけてくださっているその名号「南無阿弥陀仏」は、私たちの口元ではナモアミダブツの念仏となってはたらき、私たちの心では信心となってはたらいてくださっている。私たちには真実の心はないけれど、阿弥陀さまから恵まれたこの信心がタネとなり浄土に必ず参らせていただくことができるのだという部分でした。

今回はそれに続く、「成等覚証大涅槃　必至滅度願成就」です。訓読しますと、「等覚を成り大涅槃を証することは、必至滅度の願成就なり」となります。

まず、「等覚」という言葉の意味からうかがってまいりましょう。仏道修行の道のりは厳しく果てしなく、通常は生まれ変わり死に変わり、生死を繰り返しながら煩悩を一つ一つ断っていかなくてはなりません。その修行の階梯を仏典では五十二段階で表現します。「等覚」とはその階段の最終段階、仏のさとりの一歩手前とされます。つづく「涅槃」とは、インドの言葉でニルバーナ。煩悩の炎の消えた状態と翻訳されます。つまり仏のさとりを「涅槃」といいます。

この等覚位の菩薩としてよく例に挙がるのが弥勒菩薩です。半跏思惟の菩薩像で有名ですね。弥勒菩薩は今現在、兜率天という天界におられ、その一生が終わると人間界に生まれてさとりを開くとされ、半跏思惟の姿は、どのように我々を救い取ろうかと思案されている様子だそうです。兜率天の寿命を人間界の寿命にあてはめると、なんと五十六億七千万年だそうで。途方もない年数ですが、それほど最後のわずかな煩悩でも断ちがたく、またお釈迦さまの後、それほど待たなければこの人間界に仏は出現しないのです。



「等覚を成り」とありますのは、南無阿弥陀仏に出会い信心を恵まれた私たちは、この一生が終わったならば必ず浄土に生まれ仏に成る身と定まっているので、さとりへの段階としては、あの弥勒菩薩と同じ位にいるのだ、ということです。

親鸞聖人はこのことを和讃に「五十六億七千万、弥勒菩薩はとしをへん、まことの信心得るひとは、このたびさとりをひらくべし」（赤い経本四四ページ）と喜びを表しています。

ただし注意しなければならないことは、弥勒菩薩と同じ位であると言っても、私たちの煩悩まみれの悩み苦しんでいる姿は何一つ変わっていないと言うことです。親鸞聖人はそのことを、「浄土真宗に帰すれども、真実の心はありがたし、虚仮不実のわが身にて、清浄の心もさらになし」や「無明煩悩われらが身にみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむ心おおく暇なくして、臨終の一念にいたるまで、とどまらず、きえず、たえず」と悲嘆されています。念仏を申す身になったとて急に立派な人間になるという教えではないのです。私たちはこのような煩悩をかかえ、苦しみの中で生きていかなければならないからこそ、阿弥陀如来という仏さまは「必ず救うまかせよ」と絶えず私たちに呼びかけて寄り添ってくださっているのです。この阿弥陀さまの喚び声を聞きおまかせをする心が信心であり、このような阿弥陀さまからいただく信心だからこそ、私たちはこの命終わったならば必ず仏に成らせていただくのです。

「必至滅度の願」とは、阿弥陀仏四十八願のうち第十一願を指します。そこには「人々が、必ず仏に成ることが決まった仲間となり、必ず仏のさとりを得させよう」と誓われています。つまり、私たちが南無阿弥陀仏に出会い、信心をいただいて、仏に成る身に定まり、この世の命の尽きるとき浄土に生まれて仏に成ることは、すべて、阿弥陀如来の願いの成就によるのだと結ばれているのです。

念仏に出会うということは、煩悩にまみれているのは他の誰のことでもなく、この私であったと知らされ懺悔するとともに、そんな私が間違いなく阿弥陀さまの救いの中にあることを喜ばせていたく人生を歩んでいくことでありましょう。

インド 仏教美術の至宝を訪ねる旅③

サーンチーとその周辺の仏塔を後にして、つづいてはエローラとアジャンターの石窟寺院へと向かった。もともとは鉄道に揺られ夜を通して移動する予定であったが、インド人の移動シーズンと重なり、切符が手配できず飛行機での移動となった。田舎路線には直通便はない。サーンチーからボーパールの空港へ移動し、まずは大都市ムンバイへ飛ぶ。予定を大幅に遅れた深夜の到着ではあったが、空港近くの安いホテルで3時間ほ

法要・行事のご案内

◎ 秋の彼岸会永代経法要

【9月23・24日】両日とも午後1時から

※24日は仏教婦人会による阿北老人ホームお接待日です。会員の皆さまは9時頃より準備よろしくお願い致します。

〈法話　本願寺派布教使　藤井真隆　師〉

○太陽の沈む西方に懐かしい方の往かれた浄土を思わせていただき、ともに念仏に抱かれている喜びを聞かせていただきましょう。どうぞお一人でも多くの方のお参りをお待ちしております。

◎ 宗祖親鸞聖人 報恩講法要

【12月22日】 午後1時　日中法要
午後6時　大逮夜法要・御伝鈔拝読

【12月23日】 午前10時　総・永代経法要　お昼御斎（食事）
昼12時半　報恩講御満座・御伝鈔拝読
午後3時　和楽器コンサート
〈法話　本願寺派布教使　岡部正顕　師〉

宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、念仏に出逢えたことを悦ばせて頂く、一年で一番大切な法要です。お誘い合わせの上、参拝下さい。なお23日は参拝の皆様に御斎（昼食）を準備しております。

※本年度の執行当番は柿原組（北二条・南二条・小笠野田原）です。よろしくお願い致します。

◎ 除夜の鐘

【12月31日】 午後11時40分頃より
鐘の音とお念仏で来る年を迎えましょう。
どなた様も鐘をつくことができます。

■五ケ寺連研をのぞいてみませんか。

鴨島町・石井町の浄土真宗本願寺派の寺院五ケ寺が連続して講座を開いています。仏事作法や仏教の話を気軽に聞いてみませんか。副住職も講師の一人として共に学んでいます。

興味ある方はどうぞ気軽に副住職まで連絡下さい。

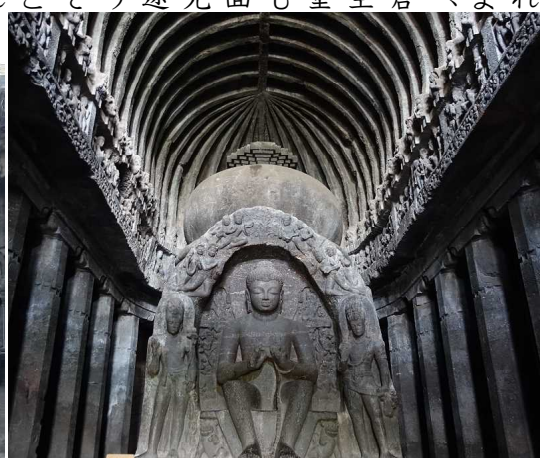
~~3月10日、18時半～正信偈の解説（鴨島 徳住寺）~~
~~5月12日、19時半～正信偈と作法（石井 西方寺）~~
~~6月7日、18時半～法話（石井 光明寺）~~
9月8日、19時半～和讃について（鴨島 西円寺）
1月12日、18時半～仏教讃歌（鴨島 徳住寺）
3月9日、18時半～まとめ（石井 西方寺）

どの仮眠を取り、再び飛行機で内陸のオーランガーバードへ飛んだ。エローラへはそこから車で約1時間である(インド地図は寺報120号)。サーンチー周辺に比べると舗装された道も多くなったが、それでもやはり道路事情はデコボコである。だんだんと道は曲がりくねり、起伏も激しくなる。車に酔いかけた頃だっただろうか、岩の台地が波のように幾重にも広がる光景が目に入ってきた。エローラ石窟寺院群はその岩の台地の中にあるのだ。

石窟寺院とは、その名の通り、大きな岩盤をくりぬき、彫刻や彩色を加えるなどして寺院を建造しているものをいう。ここエローラ石窟群は、仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教の寺院が並び立つ。その数は実に大小34にも及ぶ。年代順に紹介すると、7～8世紀頃に掘られたのが仏教石窟である。この時代はインドで仏教が徐々に衰退しつつある時期にあたるが、手彫りによって12もの石窟が掘られていることは、その信仰心の篤さをうかがわせる。石窟にはそれぞれ役割があり、本堂のように仏像が置かれた空間、僧侶が生活をする僧堂、倉庫のように使われていた空間などがある。大きな僧堂石窟は三層構造でいくつもの僧坊が整然と並び、正面からはマンションのように見えるものもある。あるいは途中で掘るのを放棄したようなものもある。出家者とそれを支える在家信者はどこに移動したのだろうか。それでも、今なお残るストゥーパ(仏塔)を背にして説法をする仏像は大変美しく慈悲深い表情をして私たちを迎えてくれたのである。

仏教窟の隣には6～9世紀に掘られたヒンドゥー教の石窟寺院が17ある。このエローラ石窟群の中で最も大きく美術的にも優れていることで有名なカイラーサナータ寺院もその一つである。仏教の石窟と比べると彫刻表現がダイナミックであり、神話に登場する神々や動物が多くにぎやかに掘られている。

ヒンドゥー教窟カイラーサナータ寺院



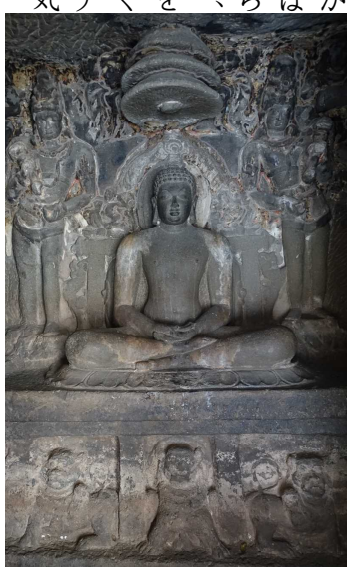
仏教窟

さらに隣には9世紀頃に掘られたジャイナ教の石窟寺院が5つ並ぶ。ヒンドゥー教に比べるとシンプルな作りであるが、柱の彫刻の細かさや天井に残る彩色からかなりの信仰があったことを物語っている。このジャイナ教は、お釈迦さまと同時代に生きたマハーヴィーラという人物によって開かれた教えで、現在インドでもごく少数ではあるが信仰者がいる。禁欲主義を掲げ、本尊として安置されるマハーヴィーラは裸体で表現される。少し見ただけでは、仏と同じように螺髪(らほつ)相(パンチパーマのような髪の毛)があったり、その姿は仏像とほぼ変わらぬように見えるが、一糸まとわぬ姿をしており、しばらく見てからジャイナ教の像であると気づくほどである。

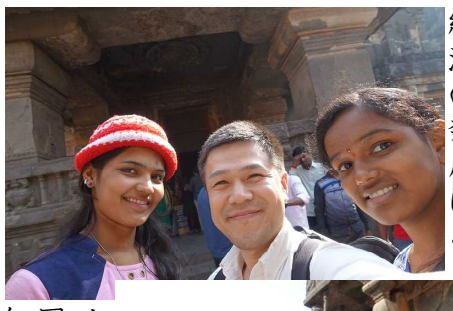
このようにエローラ石窟には、異なる宗教の寺院がほぼ同時代に、また隣接して掘られていることが知られる。それも岩山を掘るというという途方もない時間と労力、資金を必要とする方法で造られたことに驚かされる。それぞれの信仰が異なっているにもかかわらず、互いに誹謗することなく、認め合い共存共栄している。インドの宗教の寛容性がここからも伝わってくる。

このエローラ石窟には現地の観光客や課外学習の学生も多く訪れていた。彼らのなかではスマートフォンを使っての自撮りが流行っているようで、その様子は日本の中高校生と変わりがない。経済の発展により所得中間層がかなり増加しているのだろう。ここでは貧困層が多いインドのイメージは薄い。気づけば僕は彼らに取り囲まれ、「セルフィーセルフィー(一緒に自撮りしよう)」と声をかけられる。僕は何故かインドで人気者となった。

(つづく)



ジャイナ教窟



中四国仏教婦人会大会 報告

8月30日、アスティ徳島を会場に、中四国仏教婦人会大会が開催された。大会にはご本山よりご門主さまをお迎えし、仏教婦人約3600名(尊光寺からは20余名)が集まった。お勤め、ご門主のお言葉などの式典に続き、東日本大震災で被災した気仙沼で「すがとよ酒店」を再建し営む菅原文子さんより「悲しみの中から生き抜く力」と題して講演があり、津波にのまれ家族を失った悲しい体験とその中で出会ったお念仏のご縁の話に会場は涙にあふれた。その他、「迦陵頻伽」による音楽を取り入れた法話、県阿波踊り協会選抜メンバーによる阿波踊りなど、会場は盛り上がり、仏教婦人として念仏香る日々を送る思いを新たにした。

■副住職担当、NHK文化センター 徳島教室のご案内

各講座、受講生募集中
6回6ヶ月で13,478円
問い合わせは、
徳島駅前のNHK文化センター
(電話 088-611-6881)

●親鸞聖人と「歎異抄(たんにしょう)」 月1回 月曜 午後1時半～
9月10日、10月15日、11月12日、12月3日、1月14日…
「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら、親鸞聖人の生涯とその教えを味わいます。

●仏教講座「御文章(ごぶんしょう)」を読む 月1回 金曜 午前10時～
9月14日、10月12日、11月9日、12月7日、1月11日…
「朝には紅顔ありて夕には白骨となれる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教の基礎知識とそこに書かれた仏さまの心に触れてみませんか。

平成30年 年忌表

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
25回忌	平成 6年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年
61回忌	昭和33年
100回忌	大正 8年
150回忌	明治 2年
200回忌	文政 2年
250回忌	明和 6年
300回忌	享保 4年

過去帳・お位牌をお調べください

九月二十三日・二十四日

両日とも午後一時より　お勤め

二十四日は仏教婦人会による阿北老人ホームお接待日です。
会員の皆さまは9時頃よりご準備くださいませ。

秋の彼岸会永代経法要

法話講師　本願寺派布教使　藤井真隆師（香川県）

太陽の沈む西方に、懐かしい方の往かれた浄土を思わせていただき、ともに念仏に抱かれている喜びを聞かせていただきましょう。
お一人でも多くの方のお参りをお待ちしております。

尊光寺